

外国人散在地域における日本語教育の展開

公益財団法人岩手県国際交流協会 主事 佐々木 葵
(岩手県地域日本語教育推進事業 総括コーディネーター)



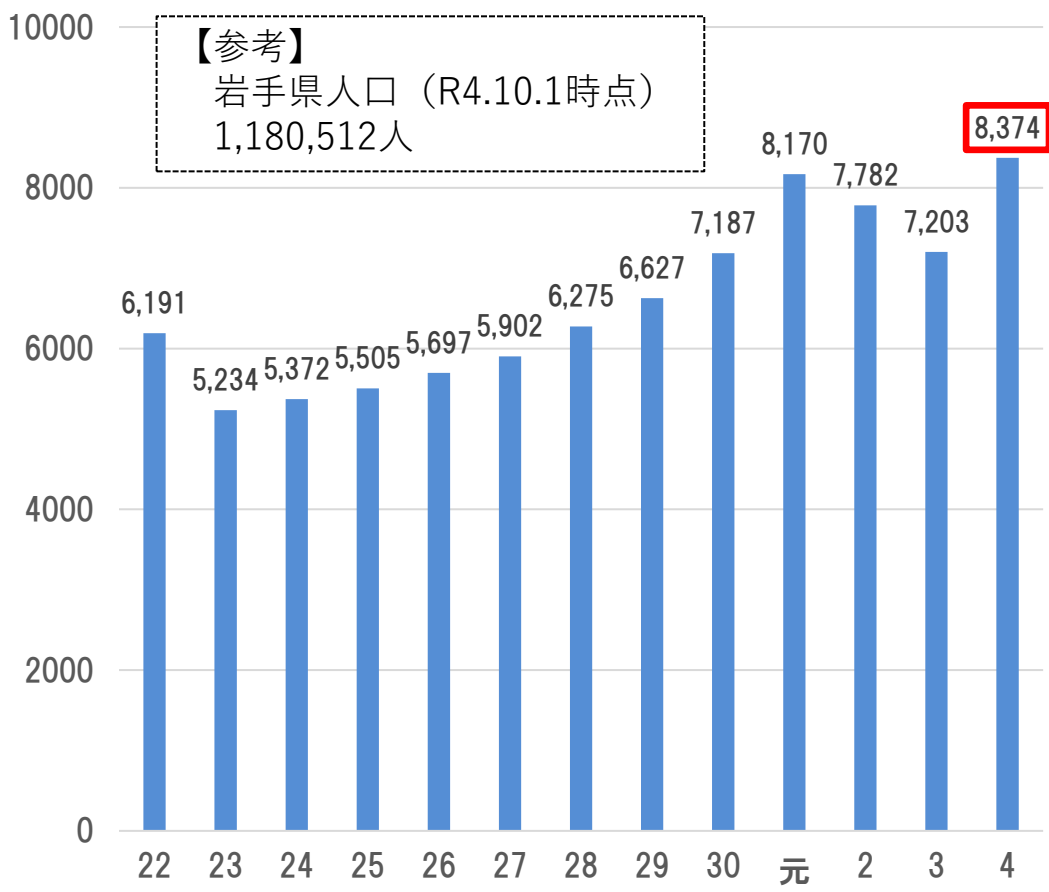
公益財団法人 岩手県国際交流協会
Iwate International Association

1. 岩手地域日本語教育推進事業の概要について
2. 取組紹介 1：日本語教室開設サポート
3. 取組紹介 2：オンライン日本語教室

1. 岩手地域日本語教育推進事業の概要について

外国人県民の状況

【在留外国人数の推移】

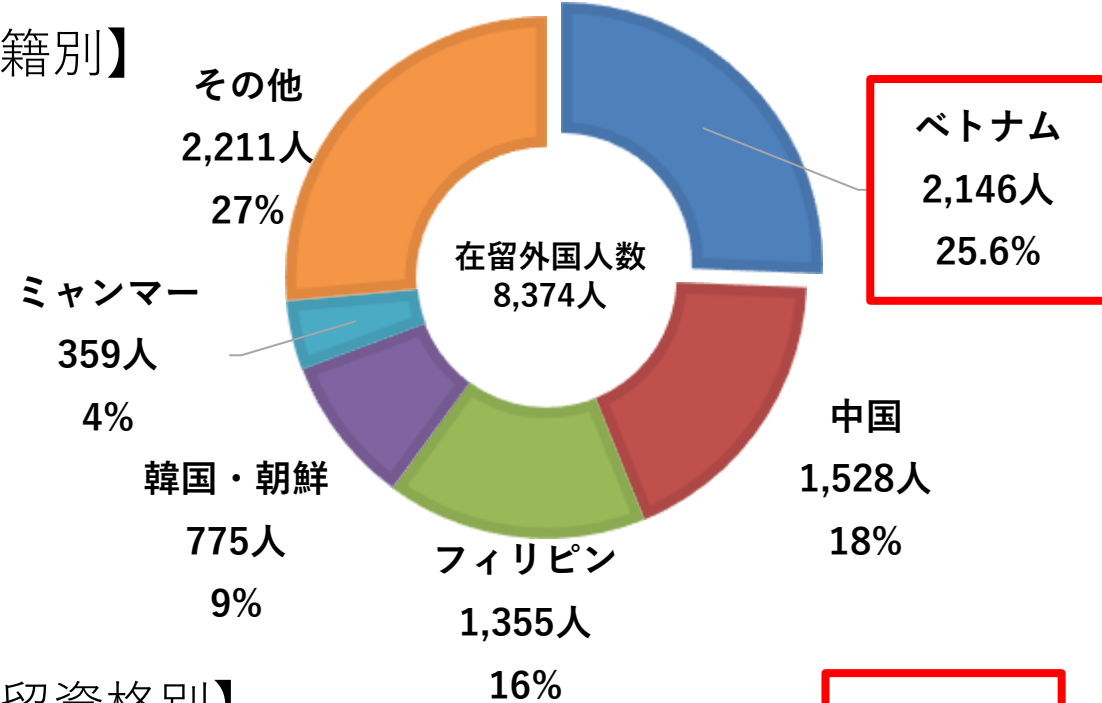


【参考】
岩手県人口（R4.10.1時点）
1,180,512人

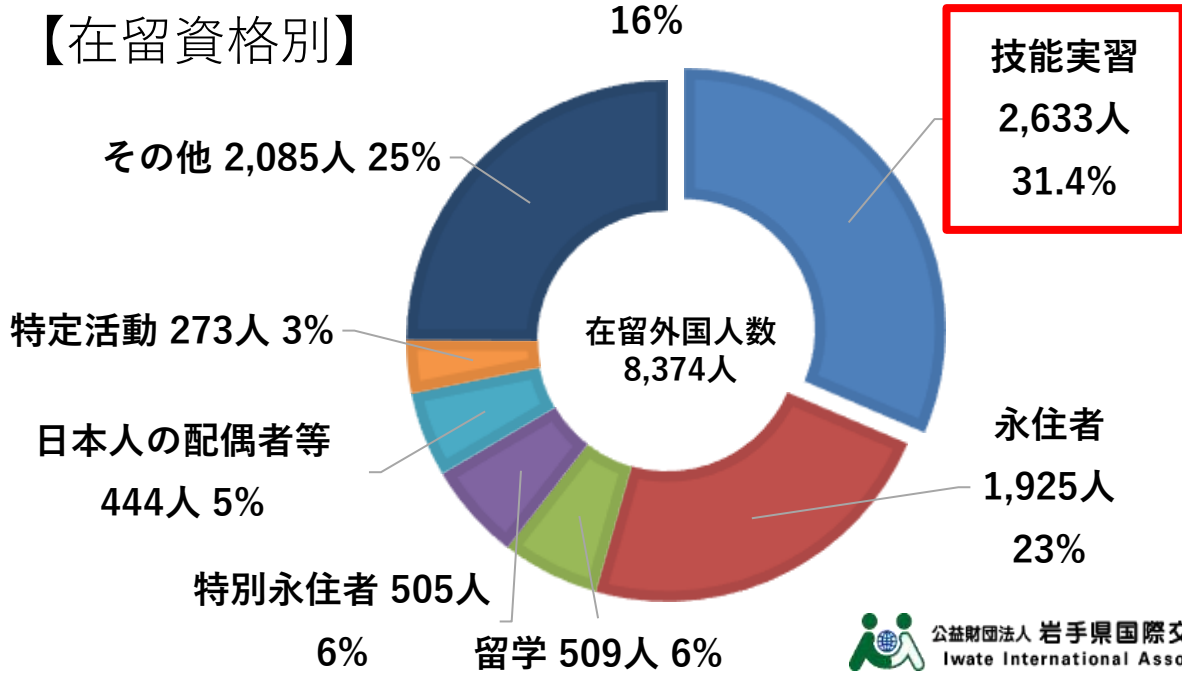
※ 出入国管理庁在留外国人統計（各年12月末現在）による

- ・ 令和元年まで在留外国人数は増加傾向（R2、R3はコロナウイルス感染拡大の影響で減少）
- ・ 国籍別ではベトナム、在留資格別では技能実習の在留外国人が多い

【国籍別】



【在留資格別】



地域日本語教育推進事業実施の背景

【地域の日本語教育を推進する動き】

出入国管理及び難民認定法及び法務省設置法の一部を改正する法律（平成30年12月公布）

- ・在留資格「特定技能1号」「特定技能2号」の創設
- ・出入国在留管理庁の設置
→「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」

日本語教育の推進に関する法律（令和元年6月公布・施行）

- 基本方針について
→ 国が基本方針を策定、地方公共団体は基本方針を参酌し基本的な方針を定めるように努める

日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針（令和2年6月閣議決定）

地方公共団体は地域の状況に応じた日本語教育推進施策を策定・実施する

外国人県民の
増加

令和4年3月「岩手県における日本語教育の推進に関する基本的な方針」の策定

取組前の現状・課題

【現状】（県の基本方針策定にあたり関係主体等へアンケート、ヒアリングを実施）

市町村 市町村国際交流協会	18市町村に日本語教室がない （33市町村すべてに外国人県民が暮らしている） 大半の市町村で日本語教育関連の予算なし
地域の日本語教室	教室の多くが無料で、 ボランティアによる運営・指導 若い教育人材が少なく、また家庭の事情等で指導を中断する人もいる
外国人県民	会話の練習、日本語能力試験対策など様々な学習ニーズがある一方、 居住地域に教室がない、身近に教えてくれる人がいない等の声もある 交通事情や気象状況により学習を中断する人もいる
事業所	外国人労働者に対する日本語教育の実施状況は様々である 教材探しなど日本語学習への支援を求める声もある
有識者からの意見	本県は外国人が散在しているため、他県の集住地域とは異なる特徴に留意 する必要がある 日本語教育人材の役割分担についても明確化する必要がある

取組前の現状・課題

【課題】

（１）日本語学習機会の提供・拡充に関する課題

- ・日本語学習環境がない外国人県民等に対して、**学習機会の提供**が必要
- ・交通事情、気象状況、生活や仕事の都合などにより**日本語教室へ通えない外国人県民等への対応**が必要
- ・学習希望者の**多様なニーズやレベルに対応した学習機会の提供**が必要

（２）日本語教育人材の確保・育成に関する課題

- ・**教育人材を確保し、適切な役割分担のもとで定着促進**が必要
- ・地域の日本語教室を担う**教育人材に対する相談・支援体制の確保**が必要

（３）県民の理解と増進に関する課題

- ・受け入れる側も、**多文化共生理念の普及**が必要
- ・外国人労働者への日本語教育の提供に当たり、**事業者の協力**が必要
- ・生活情報の周知、地域行事への参加に**事業者の理解や配慮**が必要

（４）日本語学習に関する情報発信に関する課題

- ・事業者や日本語教室、市町村、市町村国際交流協会等に、**日本語教室の情報や教材、活用可能な補助制度等に関する情報の提供**が必要

岩手県における日本語教育の推進に関する基本的な方針（令和４年３月）

(<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kokusai/tabunka/1050766.html>)

施策の方向性

外国人県民等が仕事や生活で不便を感じることなく、地域で生き生きと暮らしていくためには日本語を習得できるようにすることが重要であり、併せて、地域においては多文化共生への理解を深めることが求められる。

県、市町村、国際交流協会、地域の日本語教室、事業者等の各主体が連携しながら、本県で暮らすすべての外国人県民等を対象とし、すべて人に共通する「生活者」の側面に着目した日本語教育を推進する。

【目指す姿】

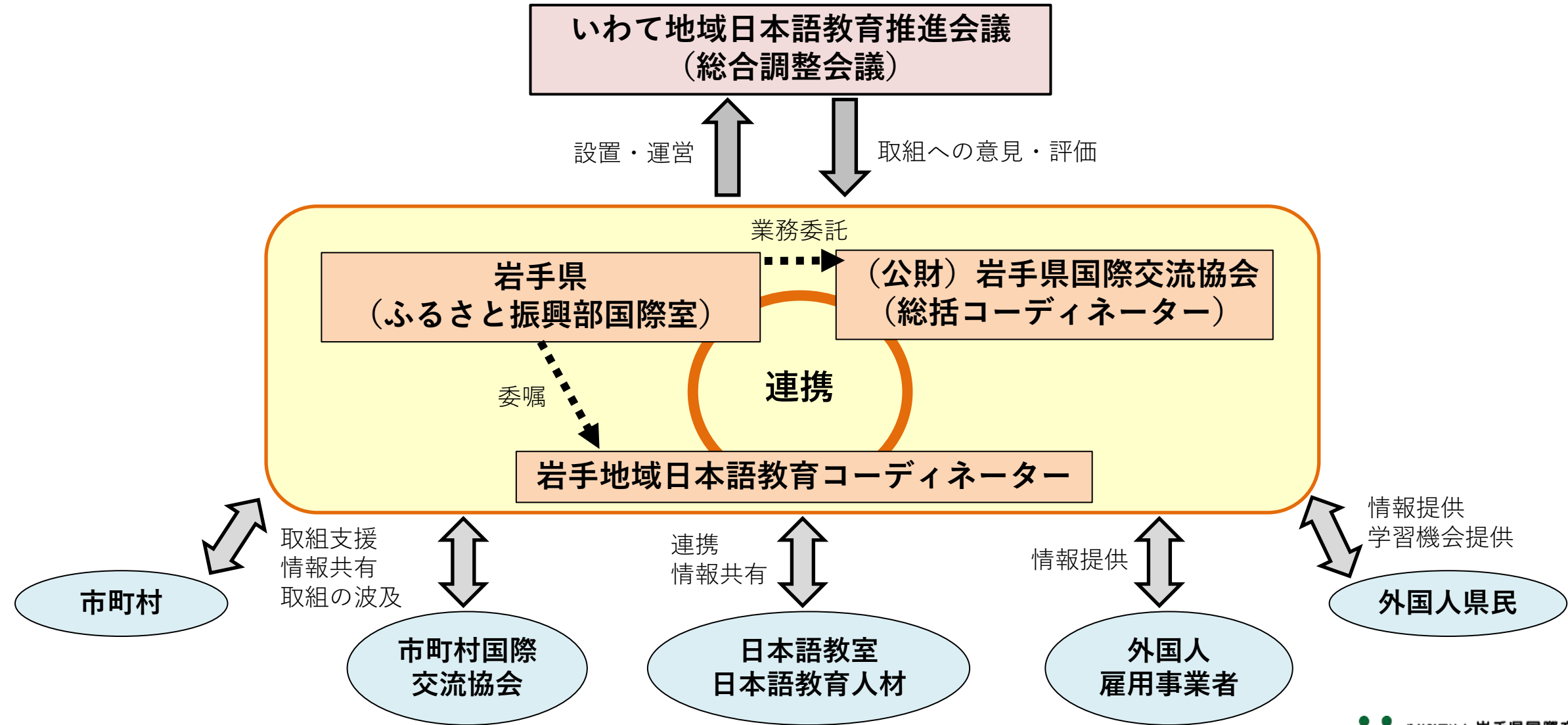
希望する人、必要なすべての外国人県民等が日本語を学ぶことができ、
地域で支え合い、共に発展する岩手

【外国人県民向けキャッチフレーズ】

いっしょに^{まな}学ぼう日本語、いっしょに^{にほんご}暮らそう^く岩手県^{いわてけん}

実施体制

- 県から県国際交流協会へ地域日本語教育推進業務を委託（総括コーディネーター配置を含む）
- 県から日本語教育の有識者 3 名に「岩手地域日本語教育コーディネーター」を委嘱



事業の目的・目標

【基本方針における 4 つの取組の方向】

文化庁補助事業「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」を活用

(1) 日本語学習機会の提供・拡充

日本語学習を希望する外国人県民等が環境や能力に応じて学習できるよう、日本語学習機会の提供・拡充に取り組みます。

(2) 教育人材の確保・育成

効果的かつ安定的な日本語教育を継続して提供できるよう、日本語教育を担う人材の確保・育成に取り組みます。

(3) 県民の理解と関心の増進

外国人県民等が地域社会の一員として共生できるよう、日本語教育を含む多文化共生理念の普及啓発に取り組みます。

(4) 日本語学習に関する情報発信

外国人県民等や日本語教育に携わる関係者が必要な情報にアクセスできるよう、情報の収集と発信に取り組みます。

【令和 5 年度の取組み】

本県の基本的な方針に基づいて日本語学習支援に関わる人材の確保・育成に取り組みつつ、外国人県民等に対する日本語学習支援の取組の促進に努める。

昨年度に続き、オンラインでの日本語講座を開催し、外国人県民等へ学習機会を提供しつつ、引き続き学習ニーズの把握、オンラインでの学習における（運営側の）ノウハウの蓄積に努める。

基本方針における4つの取組の方向に沿った取組

(1) 日本語学習機会の提供・拡充

- 日本語教室空白地域における教室開設サポート
- オンライン日本語教室の実施

(2) 教育人材の確保・育成

- 日本語教育人材向け研修の実施
- 地域の日本語教室への訪問・相談対応

(3) 県民の理解と関心の増進

- 県民向け多文化共生セミナーの実施
- 外国人雇用セミナーとの連携による事業者に向けた日本語教育の情報提供

(4) 日本語学習に関する情報発信

- 日本語教室開催情報の提供
- 事業者向け情報発信（再掲）

主な取組内容

(1) 日本語学習機会の提供・拡充

— 日本語教室空白地域における教室開設サポート

— オンライン日本語教室の実施



(2) 教育人材の確保・育成

— 日本語教育人材向け研修の実施

— 地域の日本語教室への訪問・相談対応



主な取組内容

(3) 県民の理解と関心の増進

- 一 県民向け多文化共生セミナーの実施
- 一 外国人雇用セミナーとの連携による事業者に向けた日本語教育の情報提供



(4) 日本語学習に関する情報発信

- 一 日本語教室開催情報の提供（在住外国人向け）
- 一 事業者向け情報発信（再掲）

主な取組内容

(1) 日本語学習機会の提供・拡充

- 日本語教室空白地域における教室開設サポート
- オンライン日本語教室の実施

(2) 教育人材の確保・育成

- 日本語教育人材向け研修の実施
- 地域の日本語教室への訪問・相談対応

(3) 県民の理解と関心の増進

- 県民向け多文化共生セミナーの実施
- 外国人雇用セミナーとの連携による事業者に向けた日本語教育の情報提供

(4) 日本語学習に関する情報発信

- 日本語教室開催情報の提供
- 事業者向け情報発信（再掲）

2. 取組紹介 1 : 日本語教室開設サポート

日本語教室開設サポート

【R4年度：大船渡市国際交流協会へのサポートを実施】

大船渡市の概要（R4.10月末現在）

岩手県の沿岸南部に位置するまち

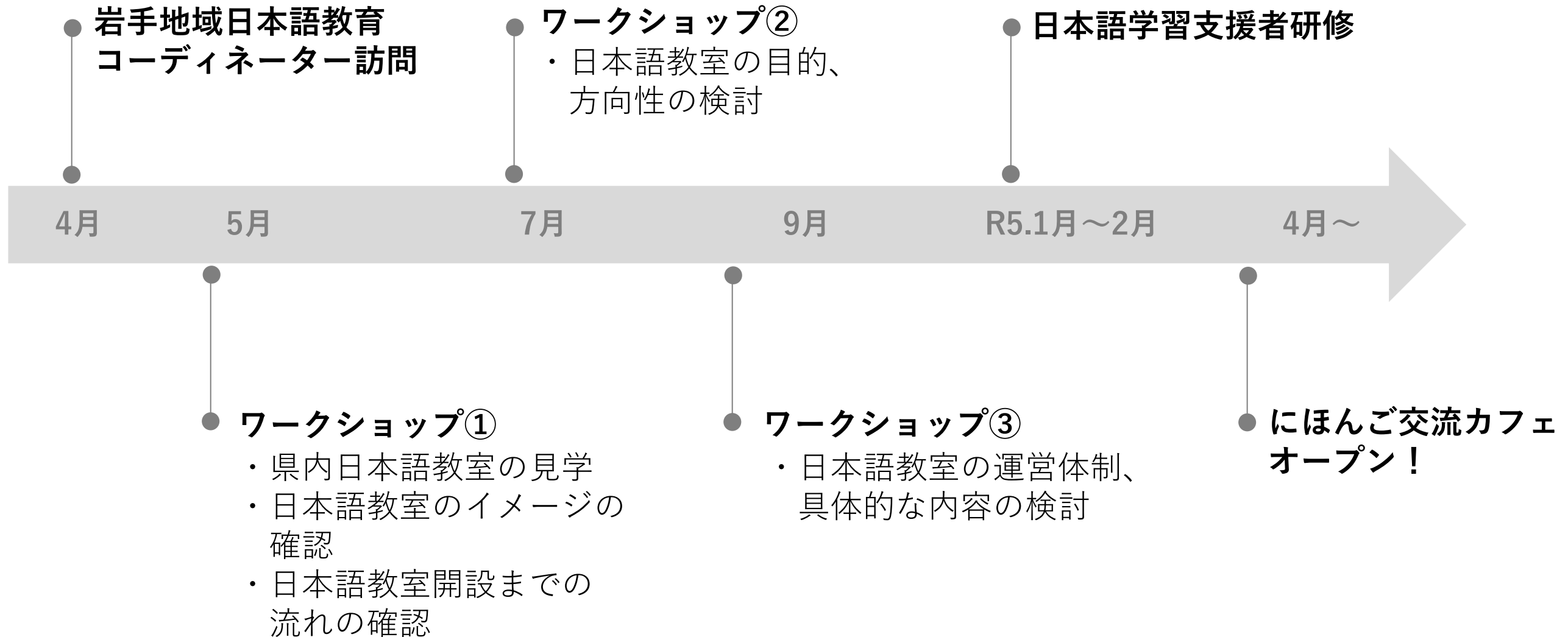
- ・人口 33,336人
- ・外国人人口 307人
 - 主な国籍：中国、ベトナム、フィリピン
 - 主な在留資格：技能実習、永住者、特定技能

開設サポートまでの経緯

- R2 大船渡市国際交流協会 設立
- R3 市内に日本語教室がなく、市国際交流協会から「日本語教室を立ち上げたい」との声
- R4～ 教室開設サポートの実施



教室開設までの流れ



教室開設までの流れ

地域の日本語教室のイメージ
＝カリキュラムがある、
＝日本語を“教える”場

“交流”を中心にした教室の
方向性の決定

● 日本語学習支援者研修

4月

5月

7月

9月

R5.1月～2月

4月～

県内日本語教室見学
→ 日本語教室は“相互交流”の場

にほんご交流カフェ開設！

目的：在住外国人と地域住民との交流、
生活のサポート、生活の日本語学習
内容：交流を基本として、そこから日本語
学習につながるものに
対象：市内に在住している生活者としての
外国人

ワークショップの内容

大船渡「日本語教室」の目的 – どんな場所にしたい？

雰囲気

- ・ リラックス
- ・ ホット一息
- ・ また行きたくなる
- ・ 楽しい
- ・ 自分を出せる
- ・ 交流
- ・ つながり

生活

- ・ 地域の情報が得られる
- ・ 生活のルールが学べる
- ・ 地域の情報を得られる
- ・ 頼れる日本人と出会える
- ・ 相談ができる

日本語

- ・ 日常会話、実用的な日本語が身につけられる
- ・ 楽しく学べる

文化

- ・ 日本文化を知ることができる
- ・ お互いの国のことを知ることができる
- ・ 異文化体験ができる



ワークショップの内容



「日本語教室」という名前は、「教える」というイメージになってしまう…

- ・「交流」が中心にある
- ・気軽に立ち寄れる場所になってほしい

→ 「にほんご交流カフェ」という名称に



継続的ににほんご交流カフェを運営していくには…

- ・市国際交流協会だけでは、人員体制に不安がある
- ・にほんご交流カフェの事務局を担える人材が必要
(協会の専任職員はおらず、ボランティアで運営)

→ 市内のNPO団体と連携した運営に

【NPO団体と連携してよかったこと】

- ◎ NPO団体が活動場所（市センター内）の管理運営補助を行っている
→ にほんご交流カフェの運営業務
(会場確保、問合せ対応、教材等の管理、広報活動 等) に対応できる
- ◎ 場づくりの取組みが得意
→ これまでも、地域コミュニティ、子ども、高齢者の場づくり、つながりづくりや交流事業行っている

にほんご交流カフェの活動の様子



プレオープン
(3月)

好事例として、県内で新たに交流型の日本語教室を開設予定の市や市国際交流協会、日本語学習支援者が、にほんご交流カフェを見学



県内他市からの見学の受入
(7月)

(4月)
にほんご交流カフェ
スタート



(今後)
通常カフェと並行して
イベント実施を企画

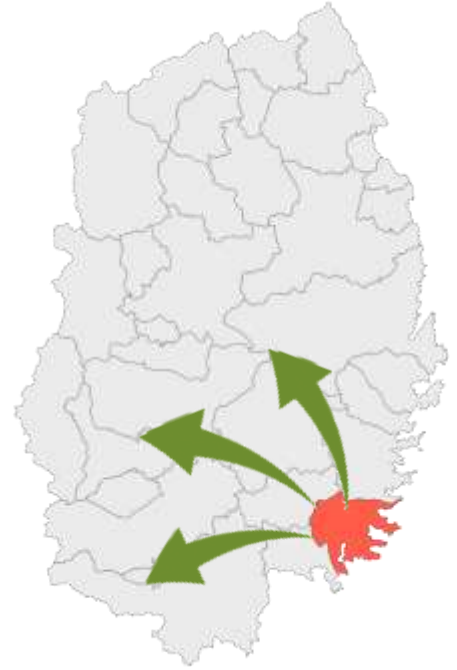
R5年度は、
・ 茶道体験
（地元高校茶道部との共催）
・ 浴衣体験
・ 防災教室
を実施予定

これまでの取り組みから

● 先進的事例として

にほんご交流カフェが好事例となり、

- ・ 県内他市町で教室開設に向けて取組む動きが出てきている
- ・ 教室開設に向けて取組む団体からの見学の申し出が出てきている



● 取組み 3 か月を迎えて

【にほんご交流カフェからの声】



交流活動のバリエーションを増やしたいけど…

もっと広く市内の外国人住民に参加してもらいたいけど…

▶ 岩手地域日本語教育コーディネーターによる伴走支援を実施



3. 取組紹介 2 : オンライン日本語教室

オンライン日本語教室の実施背景

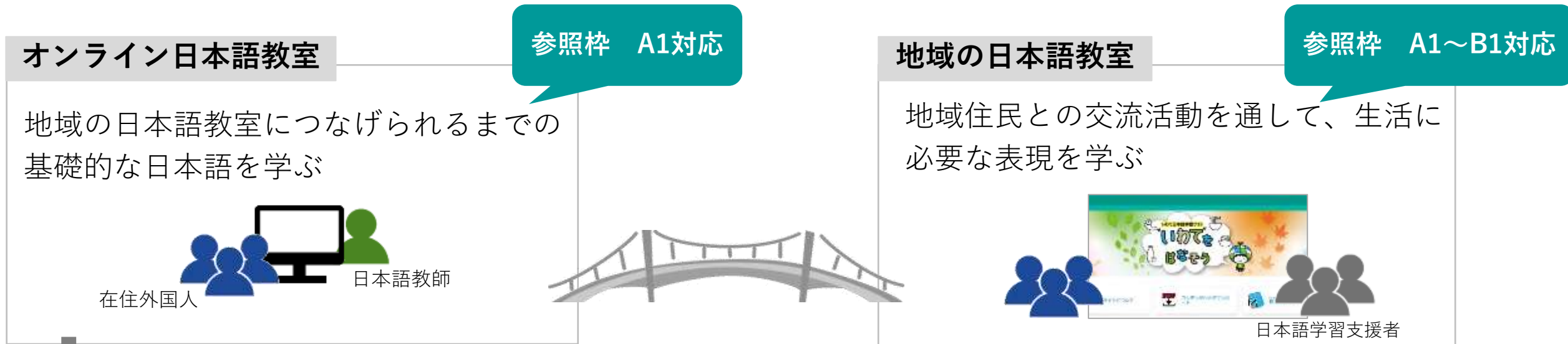
- ② 地域の日本語教室にA1レベルの在住外国人が参加した際に、日本語学習支援者が対応できない
 - “日本語を教える” 役割ではない日本語学習支援者が、日本語教育を行っている
 - 日本語学習支援者の負担や、支援者不足につながっている
- ③ 居住地域に日本語教室がない、交通事情や気象状況によって日本語教室に通えない在住外国人もいる

基礎日本語教育を行うオンライン日本語教室を実施

- ④ 基礎日本語教育を日本語教師が行うことによって、効果的・効率的に日本語を学ぶことができる
 - この講座で基礎的な日本語を習得した後は、地域の日本語教室での地域住民との交流活動にもつなげられる【基礎日本語教育：Can doベース、交流活動：活動ベース】
- ⑤ オンライン環境の活用により、アクセスしやすい学習機会の提供ができる
 - 短期的に在住外国人のニーズに応えることができる
(日本語教室空白地域における日本語教室開設サポートと並行した事業展開)

オンライン日本語教室の目的

- ✓ 地域日本語教室に在住外国人が参加しやすい環境を作ること
 - ✓ 地域日本語教室の日本語学習支援者が活動しやすい環境を作ること
- 地域日本語教室の活性化につなげる



岩手地域日本語教育コーディネーターによるカリキュラムの作成・実施

- ・ 「"いわて"をはなそう」の作成メンバー
 - ・ 地域日本語教室に合わせたカリキュラム作成・実施が必要
- R3～ 県内の日本語教室を訪問し、各教室の状況把握や相談対応を実施
- 地域日本語教室の実情や地域性を把握している

「いわて」をはなそう」のご紹介

● 作成の背景

文化庁が日本語学習サイト「**つながるひろがる** にほんごでの暮らし」を公開

→ ちょっと都会目線だった…

例) 駅：チャージって？ / 無人駅はどうすれば？

→ 地元事情も知りたい！

例) 産直って安い！ / 雪の日は注意することがいっぱい…

▶ 「つながひろ」では扱われない**“岩手の生活場面”**に焦点を当て、「**岩手**」について**学びながら日本語を習得できる**よう支援する**日本語学習コンテンツ**を作成

● 対象者

- ・ 岩手で生活する外国人（A1～B1レベル）
- ・ 岩手で生活する外国人をサポートする人（日本語学習支援者）

● 特徴

- ・ 独学ではなく、**学習者とサポートする人が一緒に話しながら使う会話教材**
- ・ **行動ベース（生活場面）でトピックを立てている**



<https://www.iwate-resource-bank.jp/nihongo/>

「“いわて”をはなそう」の内容

◎岩手の暮らしに関わる 6 つのテーマについて、学習者と支援者が話しながら
日本語、地域事情を学んだり、学習者の出身地の事情を聞いたりする

★ポイント **CEFR A1～B1に対応**
同じテーマでもレベルごとの
学習内容(活動例)を用意

テーマ



クイズ



単語

Tữ vựng				
日本語 (Jisho)	ローマ字	ローマ字	ローマ字 (ローマ字)	ローマ字 (ローマ字)
	凍る	こおる	kooru	đông
	凍結	どうけつ	doutetsu	đông cứng
	圧雪	あっせつ	assetsu	ép tuyết
	雪	ゆき	yuki	tuyết
	みぞれ	みぞれ	misore	mưa tuyết
	氷	こおり	koori	đá
	積雪	さめし	sameshi	mặt tuyết

活動例

A1

A1 はな話しましょう

- あなたの国は、^{くに}雪が^{ゆき}ふりますか。
- あなたの国に、^{くに}冬が^{ふゆ}ありますか。
- あなたの国の冬の^{くに}温度は^{ふゆ おんど}何度^{なんど}ですか。

活動例を提示することで
行動ベースの活動につなげる工夫

進め方のコツ 🔍

- ・メイン画像を見ながら、岩手の冬を感じ取ってもらいましょう。
- ・冷蔵庫の中の温度を見て、寒さを感じ取ってもらいましょう。
- ・温度の言い方、天気マークを覚えてもらうと便利です。
- ・学習者のレベルによって語を広げてください。

オンライン日本語教室の概要

● 授業について (R5)

- ・ 前期コース：2023年7月～10月 全13回
+ ひらがなカタカナに不安がある人のため、ひらがなカタカナコースを6月に実施
(後期コースも開講予定：2023年11月～2024年2月)
- ・ 毎週水曜日、19:00～20:30
- ・ Zoomを使用

● 学習者について (R5)

- ・ 対象：県内在住外国人で、ひらがな（できればカタカナも）が読める人
- ・ 参加者：技能実習生、ALT、日本人の配偶者など18名
(日本語教室空白地域からの参加者10名)



The flyer is titled "オンライン にほんご きょうしつ" (Online Japanese Classroom). It provides the following details:

- いつ** (When): 毎週水曜日 午後 7:00 ~ 8:30 全13回 (Every Wednesday, 7:00 PM ~ 8:30 PM, 13 sessions total). It also lists the start and end dates: 【始まります】2023年7月5日 (starts July 5, 2023) and 【終わります】2023年10月4日 (ends October 4, 2023).
- どこ** (Where): オンライン (Zoomミーティング) (Online (Zoom Meeting)).
- だれ** (Who): 岩手に住んでいる人 (People living in Iwate), ひらがな、カタカナを読むことができる人 (People who can read hiragana and katakana). It also mentions that the course is for those who are not confident in hiragana and katakana.
- なに** (What): あいさつなどの基礎的な文やことは、表現を学びます。 (Learn basic sentences and expressions such as greetings). テキストを使います。→ <https://iwa-int.org/online/japanese/> (We use a textbook. → <https://iwa-int.org/online/japanese/>).
- いくら** (How much): ￥0 (お金はかかりません) (¥0 (No fee)).
- 申し込み** (Application): QRコード/URLから申し込んでください。 (Please apply via QR code/URL). It includes a QR code and the URL <https://iwa-int.org/online/japanese/>.
- 問合せ** (Inquiry): 岩手県国際交流協会 (Iwate International Association). Email: iwa-int@iwate-ia.or.jp, Phone: 019-654-8900.

At the bottom, it mentions the association's address and provides contact information for the Iwate International Association.

オンライン日本語教室の内容・特徴

● 内容

- ・ 地域での生活で想定される最低限の日本語能力を身に付ける（参照枠A1レベルを想定）
- ・ 各地の日本語教室で、日本語学習支援者との教室活動に参加するために求められる日本語能力を身に付ける

● 特徴

- ・ 遠隔地に在住、公共交通機関がない地域でも学べるようオンラインで提供
- ・ 岩手での生活に必要な場面（ときには話題）を設定
- ・ 各課にCan doとモデル会話を設定
（モデル会話は、岩手での生活日本語を意識して作成。登場人物は技能実習生のイメージ）
- ・ 各地の日本語教室でコミュニケーションをする、相手の言っていることを理解するために必要と思われる項目を扱う

カリキュラム・教材開発の流れ（概要）

- ① ゴールの設定
- ② Can doの設定
- ③ 必要な学習項目の洗い出し
- ④ カリキュラムの完成
- ⑤ モデル会話の作成
- ⑥ 各課教案の作成
- ⑦ 復習用モデル会話のYouTube動画（音声のみ）の制作

カリキュラム・教材開発の流れ（詳細）

① ゴールの設定

- 全体のゴール：A1レベルの学習者が、各地の日本語教室に参加した際に、日本語学習支援者と会話するための**基礎的な日本語能力**を身につける
- 各課のゴール：モデル会話を参考に、**Can doの達成を目指す**とともに**会話場面での運用**につなげる

② Can doの設定

- 『JF 生活日本語Can do』、『「いろどり」目標 Can do』等を参考に設定
- 当初は既存Can doを使用することも考えたが、**最終的に独自のCan do**を作成

③必要な学習項目の洗い出し

- 『いろどり 生活の日本語』、『わたしをつたえるにほんご（CINGA）』、『にほんごこれだけ！』、『みんなの日本語』等を参考に洗い出し

④ カリキュラムの完成

→ Can doと学習項目を全24コマで扱う

⑤ モデル会話の作成

→ できるだけ岩手での生活場面や地名、ことば等を取り入れた会話を作成

⑥ 各課教案の作成

⑦ YouTube動画（音声のみ）の制作

→ 宿題としてのシャドーイング練習用に制作

19. かきを たべる ことができます

● Can do

自分ができることとできないことについて、
伝えることができる。

● 学習項目

- ・ 辞書形
- ・ 辞書形＋ことができます
- ・ 名詞＋ができます

● モデル会話

B：Aさんは かきを たべる ことができますか。

A：はい、たべる ことができますよ。

B：りくぜんたかたで おいしい かきを たべる
ことができますよ。

こんど いっしょに いきませんか。

A：いいですね。いきましよう。



〈使用テキストの例〉

これまでの取り組みから

● 事業としての成果

- ・ 受講者が各地の日本語教室に参加し、日本語学習支援者との交流活動をとおして、**日本語や地域について学んだり、交流したり**することができるようになる
- ・ オンラインを活用したことにより、**遠隔地に在住、公共交通機関がない地域や日本語教室がない地域に在住している外国人も日本語学習の機会が得られる**
(参加者のうち、約半分が日本語教室空白地域から申込み)

● 授業を通しての成果

- ・ モデル会話を参考に、**会話能力を育成できる**
- ・ 各回のCan doを達成することで、日本語教室や生活の場で使うことができる
コミュニケーション能力を獲得することができる

これまでの取り組みから

● 事業運営の課題

- ・ 受講希望者はA0～B1レベルと幅広く、また、毎回定員の倍以上の申込みがあるため、**受講希望者全員の受入れ等の対応が難しい**
- ・ 地域や日本語教室に繋ぐまでを目標としているが、**実際に地域の日本語教室等に繋がっているかどうか把握しきれていない**
- ・ 講座を担当する日本語教師がなかなか見つからない

● オンライン活用についての課題

- ・ 対面教室に比べ、学習者同士のコミュニケーションや交流が少ない
→ **今後、学習者同士の交流会の開催を検討**
- ・ 学習者のインターネット環境あるいはデバイスの状態等によって、活動に制限が出る
- ・ クラスの規模について、1画面の中で学習者全員の様子を確認するには、10名程度が限界
→ **今年度から試行的に、1授業当たり講師3人体制での指導**



引き続き、オンラインでの学習機会を提供しつつ、運営側のノウハウの蓄積に努める